

政策整理番号	24	施策番号	4	評価シート(B) (施策評価: 施策を構成する事業の評価)		
対象年度	H18	作成部課室	保健福祉部 長寿社会政策課	関係部課室		
政策名	男女共同参画社会の実現と全ての人に参加できる社会の形成			政策番号	3 - 7 - 3	
施策番号	4	施策名	高齢者がいきいきと生活する社会づくり			

施策概要
 高齢者がその能力を生かして社会に貢献し、いきいきと暮らすことのできる社会づくりを目指します。

政策評価指標 / 達成度	高齢者のうち就業・社会活動している者の割合	・・・		

達成度: A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

施策を構成する事業の分析

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果					活動(事業)によりもたらされた成果							
事業番号	事業名 【担当課】	事業の対象 (誰・何を対象として)	事業の手段 (内容) (何をしたのか)	業績指標名 (単位) <small>(事業の活動量、「事業の手段」に対応)</small>	H16	H17	H18	事業の目的 (意図) <small>(対象をどういう状態にしたのか)</small>	成果指標名 (単位) <small>(事業の成果、「事業の目的」に対応)</small>	H16	H17	H18
					業績指標の値					成果指標の値		
					事業費 (決算(見込)額, 千円) 単位当たり事業費(千円)							
1	みやぎシニアカレッジ運営事業 【長寿社会政策課】	高齢者	みやぎシニアカレッジ(高齢者大学・宮城いきいき学園)の開講、運営	講座の開催 日数 (日)	22	22	22	高齢者が行う様々な地域活動のリーダーとなる人材を育成する。	高齢者1000人に占める延べ卒業者数 (人)	3.90	4.20	4.51
					29,372	39,326	37,842					
					1335.1	1787.5	1720.1					
2	明るい長寿社会づくり推進事業 【長寿社会政策課】	高齢者	高齢者の社会活動促進事業に対する支援	ねんりんピック予選会等参加者数 (人)	1,493	1,376	2,147	ねんりんピック出場に向けて、スポーツや文化等の様々な活動に参加することで高齢者がいきいきと生活できるようにする。	ねんりんピック予選会等の参加者数 (人)	1,493	1,376	2,147
					61,010	62,441	58,000					
					40.9	45.4	27.0					
事業費計(千円)					90,382	101,767	95,842					

B - 1, 2, 3 施策を構成する事業群の評価

B - 1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業群設定の妥当性	B - 2 事業群の有効性	B - 3 事業群の効率性
適切	概ね有効	概ね効率的
<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-1 事業への県の関与の適切性と事業設定の妥当性」を総括して記載</p> <p>・事業目的、役割分担、事業体系、社会経済情勢から判断して、この事業の事業設定は適切と判断する。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-2 事業の有効性」を総括して記載</p> <p>・政策評価指標からは判定不能であるが、業績指標、成果指標では、一定の施策の効果が認められることから、事業群は「概ね有効」と判定する。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-3 事業の効率性」を総括して記載</p> <p>・政策評価指標が判定不能であるが、業績指標、成果指標では、施策の目指す方向に進んでいると判断できるので、事業群は、概ね効率的に実施していると判定できる。</p>

B 施策評価(総括)

概ね適切
<p>【評価の根拠】 B - 1, 2, 3を総括し施策を総合的に評価</p> <p>・事業群の設定は適切、有効性は概ね有効、効率性は概ね効率的であり、全体としては概ね適切と判断できる。</p>
<p>【施策の次年度(平成20年度)の方向性】 この施策における今後の課題等を記載</p> <p>・10年先の高齢社会を見据え、団塊世代など元気シニアを対象とした取組を強化する必要がある。 ・平成17年度から「元気シニアのイキイキ生活応援プロジェクト」をスタートしているが、団塊世代を含む元気高齢者に向けた核となる事業の展開やシニアカレッジアカデミー等の施策に継続的に取り組む必要がある。</p>

施策を構成する事業の分析

活動(事業)の分析		
B-1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業設定の妥当性 【国、市町村、民間団体との役割分担は適切か】 【施策目的及び社会経済情勢を踏まえた事業か】 【事業間で重複や矛盾がないか】	B-2 事業の有効性 【成果指標の推移から見て、事業の成果があったか】 【施策目的の実現に貢献したか】	B-3 事業の効率性 【事業は効率的に執行されたか(単位当たり事業費の推移その他から)】
<p>・全県を対象として、元気高齢者の学習意欲に応え、いきがい仲間づくりとともに地域活動指導者の養成を行っており、趣味活動を主体とした学習等は民間事業者を中心として役割分担を行っている。</p> <p>・人材育成を目指した事業として適正に設定されており、また、団塊世代の大量退職が始まっていることや少子高齢化の進行により、元気高齢者の社会参加、地域活動参加の促進は重要な行政課題となっている。</p> <p>・元気高齢者に対する事業として象徴的な事業であり、重複や目的が矛盾する事業はない。</p>	<p>・学園では、毎年400人の元気シニアが学んでいる。平成17年の卒業生を対象とした調査では、卒業後、積極的に地域活動に参加するようになったという方が54%となっており、地域活動の担い手、リーダーとして活動している状況が伺える。</p>	<p>・講座開催日数が変わらないが、運営費の減少により、若干効率性が高まっている。</p>
<p>・国等が主催するねんりんピックに参加することで、高齢者のスポーツ活動や文化活動を通じて交流を深める場の提供を行っている。各種スポーツ団体とも連携して予選会を実施しており、高齢者にとってひとつの目標である。役割分担は適切である。</p> <p>・高齢者の健康増進の上で、スポーツ活動等への参加は有効と考えられており、介護予防の観点からも今後も促進していく必要がある。</p>	<p>・予選会の支援種目の拡大により、参加者が増加し、底辺の広い参加となっている。</p>	<p>・ねんりんピック開催地による参加旅費変動による影響が大きいですが、概ね、効率的に実施されている。</p>

施策を構成する事業の方向性

活動(事業)の次年度(平成20年度)の方向性とその説明	
方向性	方向性に関する説明
「宮城の将来ビジョン」における位置づけ	
取組番号	取組名
維持	<p>・少子高齢化の進む中で、高齢者が果たす役割への期待は大きくなっている。団塊世代の高齢化が進む中で、地域活動、社会貢献活動に関心を持って、参加できる、参加しやすい環境整備が求められている。地域活動の仲間づくり、リーダーづくりという視点から重要な事業であり、引き続き推進する必要があると考えている。</p>
取組21	高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり
維持	<p>・高齢化に伴い、身体能力の低下から介護が必要となってくるが、可能な限り、介護が必要な状態にならないように、介護予防を進めることが行政の課題である。このひとつとして、スポーツや文化などの活動参加が、体力づくり、いきがいづくりに有効でもあることから、引き続き推進する必要があると考えている。</p>
取組21	高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり

政策評価指標分析カード(整理番号1)

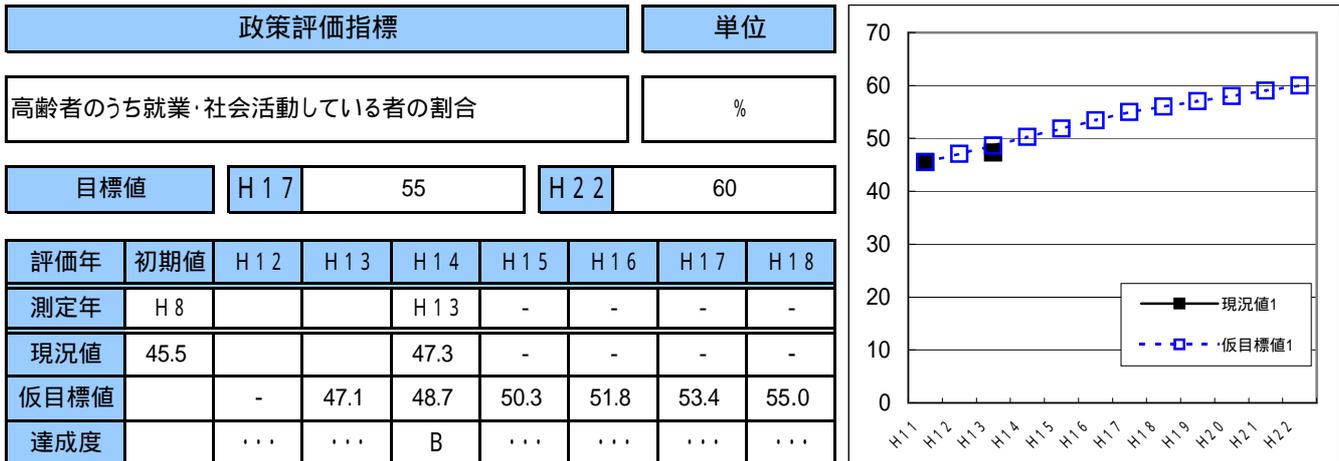
政策整理番号

24

施策番号

4

対象年度	H18	作成部課室	保健福祉部 長寿社会政策課	関係部課室	
政策名	男女共同参画社会の実現と全ての人に参加できる社会の形成			政策番号	3 - 7 - 3
施策番号	4	施策名	高齢者がいきいきと生活する社会づくり		



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

65歳以上の高齢者のうち、仕事を続けている「有業者」、及び「社会奉仕活動」や「社会参加活動」を行っている人の割合

政策評価指標の選定理由

- ・高齢者が、仕事に従事したり、社会参加活動を行うことによりいきいきとした健康的な生活を送っている社会を象徴的に示す指標として選定した。
- ・2010年には65歳以上人口が全人口に占める割合が21.3%(注)になると推計され、高齢者の就業環境の整備や社会活動に積極的に参加できる環境整備が求められている。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

- ・平成13年度の現況値は、仮目標を下回るものの、前回の測定値から1.8ポイント増加している。
- ・就業と社会活動の内訳について、平成8年度の調査では、就業が約29%、社会活動が約16%であったが、平成13年調査では、就業が26%に減少した一方、社会活動が約21%に増加した。
- ・企業等の求人状況からみて高齢者の就業環境の大幅な改善はあまり見込めないが、今後、団塊世代の高齢化など65歳以上の高齢者人口の伸びとともに生きがい、健康づくりなどの意義・必要性の理解は浸透してきていると考えられ、社会活動への参加は増加すると思われる。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

- ・この指標は、高齢者が元気でいきいきとした生活を送っていることを象徴する概括的なものとして、特に就業と社会活動に着目して設定したものである。
- ・これからの高齢社会においては、高齢者が、地域社会の一員として仲間づくりや社会貢献などで積極的に社会に参加し、これまで培った知識や技能を生かして働き、学習やスポーツに親しみ、生きがいのある人生を送ることが重要であり、そうした社会の達成度を推測できる指標である。
- ・データが5年ごとにしか得られないが、平成18年度結果(7月下旬以降公表予定)を踏まえて、評価を行った上で、改めて、新たな指標の可能性について検討する。

